

# リサーチ・クリップ

2010/1/29 No.18

リサーチ・クリップでは、最近関心の高まっている環境問題や、企業の従業員・地域社会といった様々な社会との関わりなどに関する記事や情報を紹介します。

ESG

## *EIRIS 社 企業のサプライチェーンにおける労働基準管理についてのレポートを 発表 (12月17日)*

EIRIS 社は、企業のサプライチェーンにおける労働基準管理についてまとめたレポート「A Risky Business? Managing core labour standards in company supply chains」を発表した。

同レポートは、企業のサプライチェーンの現状や、サプライチェーンにおける労働基準違反の申し立てへの対応についてまとめている。サプライチェーンの現状については、企業ごとに「先進的」「良い」「普通」「不十分」「情報無し」の5段階にランク付けをして、地域・業種別での傾向をまとめている。そのうち地域別企業のサプライチェーンの評価の傾向としては、「情報無し」(最も低いランク)に分類される企業がヨーロッパで30%、北アメリカで39%と、他の地域を大きく下回っており、同レポートでは高く評価されている。また、この両地域は、評価が「普通」以上に分類される企業がそれぞれ35%、21%と、アジア(日本以外)の3%、日本の5%を大きく上回っており、企業別でも高く評価されている。この要因として、両地域ではNGOの活動が盛んなことが挙げられている。NGOによって両地域の企業は他の地域に比べて、サプライチェーン問題に対する方針や対処する仕組みを整えるように促す強い圧力にさらされているという。

企業のサプライチェーンにおける労働基準違反の申し立てへの対応については、「児童労働」「人種差別」「強制労働」「労働組合権」「労働時間」について評価を行っている。各企業の対応は、サプライチェーンの評価に用いた5段階から「先進的」を除いた4段階で評価されている。また、個別の案件として、サプライチェーンでの児童労働が発覚したGap社やPrimark社について触れている。他に、労働基準違反リスクの高い「衣服・靴」「家電」「農産物」の各セクターについて述べられている。

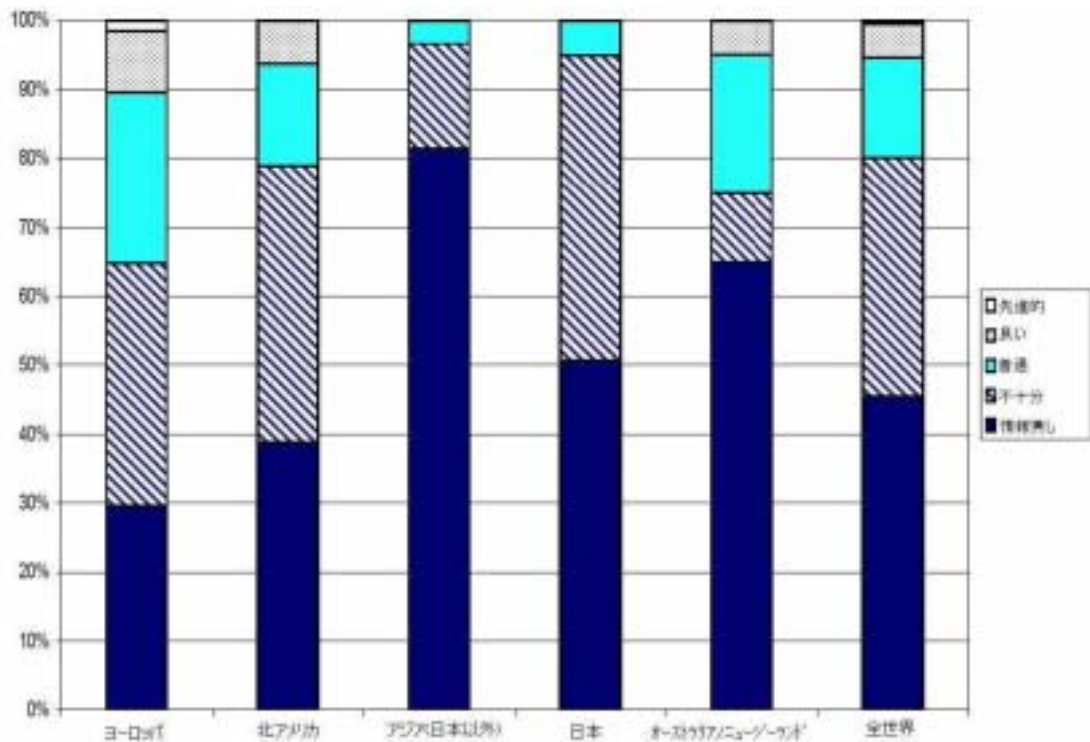
企業のサプライチェーンに関する「ポリシー」「マネジメントシステム」「レポート」についての EIRIS 社の見解を述べた部分では、企業の調達システムの中での、統一されたサプライチェーンの労働基準マネジメントシステムの必要性に加えて、従業員訓練や生産能力増強時におけるメリットが強調されている。

同レポートでは、機関投資家に対して、企業のサプライチェーンに関する「ポリシー」「マネジメントシステム」「レポート」について、企業と取り決めを行うことを勧めており、その手段として、国連の責任投資原則(PRI: Principles for Responsible Investment)イニシアチブへの参加などを挙げている。

その他の内容については下記 EIRIS 社のホームページにて参照できる。

<http://www.eiris.org/files/research%20publications/CoreLabourStandardsReportDec09.pdf>

地域別企業のサプライチェーンの評価



出所:「A Risky Business? Managing core labour standards in company supply chains」より NFI 作成

(社会システム研究所 CSR 調査室 曾我 昂平)